| | | | |
|---|---|---|---|
| 開講年度 | 2022 年度 | | |
| 授業コード | | | |
| 科目名称 | **人間関係づくりワークショップ** | | |
| 副題 | | | |
| 担当教員 | 浜中　恵美子 | | |
| 開講学期 | 夏期集中講義（後期科目）<br>9/12・13・14・15 | 単位数 | 2 |
| 授業全体の内容の概要● | この授業は、一方的に話を聞いたり、テキストや教材を読むだけではなく、４大学という異なった文化的背景を持つ受講生が、小グループで様々なアクティビティに取り組み、受講生同士が感じた事を、リアルに交流し合うという双方向型の「体験」を通じた学びを重視します。<br>ワークショップ形式の授業を通じ、グループ内の刻々と変化する人間関係の中で他者の気持ちを「受容」「共感」し、自己理解や他者理解への気づきを深め、自己のコミュニケーションスタイルを見直し、新しい行動様式を身につけることができます。<br>授業の担当者は、NTLA (National Traning Laboratory Associatin)の考えを主にワークショップのファシリテーターやカウンセラーとして、大学、企業、外資系企業、病院、官公庁など、20 年以上の実務経験を持つ教員。グループのファシリテート、ヒューマンリレーションについてより実務的な視点から解説します。 | | |
| 到達目標● | ・コミュニケーションの理論やスキルを習得することができます。<br>・他者の気持ちを「受容」「共感」することを味わい、自分自身や他者への気づきを深めることができます。<br>・感情のコントロールについて理解し、他者からのフィードバックを受け入れ、冷静に対話をすることを学び、自己成長することができます。<br>・プレゼンテーションが求められる場面や初めて出会う人の前で、不安や緊張をコントロールし、自信を持ってパブリック・スピーキングができるよう習得します。<br>・これまで一過性の個人的体験であった自己のコミュニケーションスタイルを見直し、新しい行動様式を身につけることができます。<br>・これからの人間関係づくりを肯定的にとらえ、可能性に満ちた学生生活のきっかけになることを目標とします。 | | |

| | | |
|---|---|---|
| 受講生の自主学習（授業前後）● | 日常においても､授業内容やソーシャルスキルを意識し行動化することを心がけてください。 | |
| 成績評価方法● | 1. 授業に取り組む姿勢７０％（・授業参画態度４０％　・課題、発表他３０％）<br>2. 課題レポート３０％ | |
| 受講生への要望、その他 | ・集中講義（2022 年 9 月 12 日（月)、13（火)、14 日（水)、15（木）<br>プログラム上、全日程参加可能な方。<br>・状況により授業内容、時間を変更することがあります。 | |
| 授業計画●<br>（15 回分記入） | １. | オリエンテーション<br>・ワークショップとは・体験学習の理論・授業の考え方 |
| | ２. | 「対話」とコミュニケーション<br>・『他者』と関わる､『経験』することということの意味 |
| | ３. | 自分に見えない自分の姿に気づく |
| | ４. | 出会いの試み　　・自己理解や他者理解を深める |
| | ５. | より良い人間関係を築くために |
| | ６. | コミュニケーションの弊害とは<br>・「聴く力」「話す力（伝える)」「観る力」について |
| | ７. | 心の枠組みを点検する　　・厄介な人間関係のからくり |
| | ８. | コミュニケーションと『感情』 |
| | ９. | オールタナティブな問題解決法 |
| | 10. | 相手を理解し自分の考えを伝える |
| | 11. | 「Who am I ?」「私」とは　　・私を表現する |
| | 12. | 協力ゲーム　　・集団意思決定の方法を知り、コミュニケーション特性に気づく |
| | 13. | 「考える」ということ、私をデザインする |
| | 14. | 『自分を語る』　　・作品のフィードバック |
| | 15. | ・全体の分かち合い　・これからに向かって |
| 教科書● | なし（ワークシートを使用します） | |
| 参考書● | なし（ワークシートを使用します） | |